

## 「特定秘密保護法」成立に断固抗議する！（抗議声明）

12月6日深夜、安倍政権は参議院本会議で「特定秘密保護法」を強行採決し成立させた。特定秘密保護法案パブリックコメントで寄せられた意見9万件のうち8割以上が反対意見であったように、大多数の国民が反対し、全国各地で反対の集会などが繰り広げられる中、政府は国民の意見を無視し、数の暴力を振りかざした。JR東海労は、この蛮行に対し、満腔の怒りで抗議する。

この悪法は、「秘密」を漏洩した者、「秘密」を知ろうとした者が罰則を受けるというレベルのものではない。法で定められた「秘密」の対象は、「防衛」「外交」「特定有害活動の防止」「テロ活動の防止」など、適用範囲は40万件以上ともいわれており、なおかつ曖昧である。政府が「秘密」と決めたものは恣意的判断で何ともなるもので、しかも国民にはそれが「秘密」であるかどうかの判断はできない。

自民党石破幹事長は、自身のブログで「絶叫戦術（デモ）はテロ行為とその本質においてあまり変わらない」と主張した。これが本質であり本音である。政府に盾つく者は検挙するという意味である。戦争反対を主張した労働組合や市民団体が次々と弾圧された歴史を、安倍政権はまたもや繰り返そうとしているのだ。

また、これと同時並行的に進められているのが国家安全保障会議（日本版NSC）である。日米の軍事戦略をより強固なものへとつくり上げていくためのものである。このように、安倍政権は、日本を戦争の出来る国へと着実に進めている。新たな戦前史を刻んだといえる。

私たちは、戦争に反対する全ての人たちとスクラムを組み、「特定秘密保護法」廃案の闘いを展開し、平和・人権・民主主義を取り戻すために、断固闘うものである。

2013年12月10日

JR東海労働組合